

# 木造の詳細

## 2 仕上げ編

新訂二版



■ 執筆者

清水 一

太田邦夫 (東洋大学・ものづくり大学名誉教授、太田邦夫建築設計室所長)

伊藤高光

神山定雄

古谷幸雄 (エヌディーエヌ企画設計代表取締役)

増村利夫 (増村建築設計事務所所長)

浦島 勇

■ 企画・編集

株式会社 彰国社

■ 写真撮影・提供者 (50音順)

太田邦夫 (提供) p.24

大竹静市郎 p.23

大橋富夫 p.26・p.29・p.52・p.84・p.128

岩 為 p.20・p.55・p.56・p.114左・右・p.141左・右

木寺安彦 p.28・p.113・p.126・p.129

栗原宏光 p.120左・右

新建築写真部 p.56左上・右下・p.110左・右・p.134右  
上・左中・p.135左・右・p.136左上・中

鈴木 悠 p.22

多比良敏雄 p.142・p.143

高瀬良夫 (GA photographers) p.131上・下

畑 拓 (彰国社) p.17上・中

村井 修 p.116上・下・p.117・p.118上・下

本木誠一 p.132・p.133左・中・右

横河設計工房 (提供) p.21

彰国社写真部 p.122左・右・p.123・p.136右上

まえがき

先般、新訂版が刊行された『木造の詳細 1 構造編』に続いて、本書がこのたび改訂の運びになりました。刊行後30年の歳月を経ています。変化の激しい建築界の中にあつて、木造住宅を中心とした建築設計の基本資料として本書(旧版)の果たした役割は大きく、今日でも依然として貴重な情報を提供し続けておりますが、住宅に要求される機能がより複雑化し、新しい構法や材料が登場して、設計の手法そのものがより多様になりつつある現在、仕上げ編の内容も大幅に改訂する必要があると思われたからです。

しかし、そうした時代の要請に沿うかたちでは申せ、本書の特色であった在来木造構法の基礎的な情報に関しては、次の世紀へ伝えることも本書の使命であると考えたため、できうかぎり「新版」に留めることにいたしました。巻末の実例も、ほぼ半数を新作例に改めましたが、現在でも見習うべき作例は、巻頭を飾る清水一氏の貴重な文章とともに、年代を経ても、できるだけ掲載するよう、配慮してあります。なお今回は、設計を担当された方に実例の解説をお願いすることで、内容をより充実させることができました。

また、建物の部分を互いに位置的に関連づけながら設計が進められるよう、旧版では紙面を上・中・下に分けて各部の詳細を記述した図面も、本書では分類の軸を明確にしたり、図の縮尺をなるべくそろえることなどで、より比較しやすく、選択しやすい配置に再構成してみました。

各ページには、施工しやすさや、デザイン上のなじみやすさを考えて、比較的同じ程度の施工技術・技能、工事予算や意匠形式でできる基本例をまとめましたので、それらの詳細を組み合わせて用いると、どのような基準で建物が建てられるかが、わかりやすくなっています。そうしたうえで、違うページの例を組み合わせたり、新しい試みを随所に挿入すれば、木造本来の豊かな創造性と融通性に満ちた、新しい詳細が生まれることでしょうし、それらを統合することによって、より素晴らしい木造建築のかたちと空間が、本書を通じて生まれてくることを、心から願う次第です。

今回の改訂にあたっては、外部・外部付属物を太田邦夫、外部・付録を古谷幸雄、外部開口部を増村利夫、内部を神山定雄、内部付属物を伊藤高光が分担して加筆・訂正いたしました。内部開口部はそのほとんどを旧版(担当：浦島勇)のままにしています。

1998年初秋

(太田邦夫)

新訂二版にあたって

今回の改訂にあたっては、外部・外部付属物・内部・内部付属物を太田邦夫、外部・付録を古谷幸雄、外部開口部を増村利夫が分担して加筆・訂正いたしました。内部開口部はそのほとんどを旧版(担当：浦島勇)のままにしています。

2009年冬

(太田邦夫)

まえがき 太田邦夫 3

木造の納まり 清水 一 6

## 外部 屋根・外壁・基礎

外部仕上げの基本事項	12
瓦類屋根／塗り壁／真壁・数寄屋脚部	14
瓦類屋根／塗り壁・張り壁／塗り壁の基礎・付け土台	16
瓦類屋根／張り壁・防火サイディング／張り基礎・刷毛引き基礎	20
シングル類屋根／外壁通気構法／サイディング張り乾式壁の基礎	22
繊維強化セメント類屋根・外壁・基礎	24
金属類屋根／板張り壁・基礎	26
瓦棒葺き屋根／板張り壁・基礎／丸太組み壁・基礎	28
棟・けらばの納まり・軒裏の換気／下見板張り壁・基礎／床下換気	30

## 外部開口部 出入口・窓・枠まわり

外部開口部の基本事項	34
網戸＋ガラス戸	35
雨戸＋網戸＋ガラス戸	38
雨戸＋網戸＋ガラス戸＋障子	41
片(両)開き戸＋網戸(出入口)	44
片(両)開きガラス戸＋網戸(窓)	45
片(両)開きよろい戸(雨戸)＋ガラス戸(窓)	46
その他の窓	47
縁側のガラス戸・格子	48
住宅用アルミサッシュ	49
アルミサッシュ＋障子	50

## 外部付属物 ガラス屋根(トップライト)・雨樋・バルコニー・ぬれ縁・テラス・犬走り・独立柱

外部付属物の基本事項	52
ガラス屋根・トップライト	53
雨 樋	54
バルコニー	55
ぬれ縁	56
テラス・犬走り	57
独立柱	58

## 内部 天井・壁・床・回り縁・巾木

内部仕上げの基本事項	60
天井下地・仕上げ／洗出し・研出し・塗り壁／洗出し・敷き床	62
竿縁天井／出隅各種／縁甲板・巾木・ぞうきん摺	64
数寄屋天井／真壁／縁甲板・ぞうきん摺・登寄せ	66
打上げ天井・回り縁／平板張り壁／じゅうたん敷き床・縁甲板	68
合板天井・隠し回り縁／合板張り壁出隅各種／張り床	70
張り・塗り天井・隠し回り縁／合板張り壁／フローリング床	72
金属板張り天井／ハードボード張り壁／自然石・人造石張り床	74
吸音板張り天井／タイル張り壁／金属製巾木／自然石・タイル張り床	76

## 内部開口部 鴨居・敷居・無目・枠まわり

内部開口部の基本事項	80
真壁＋引違い障子	81
開口部建具の形式	82
3本引きふすま	83
大壁＋真壁＋引違い障子	84
真壁＋大壁＋引違い戸	85
両面大壁＋3本引違い障子	86
引込み戸	87
真壁＋欄間の種類	88
はめ殺し	89
両面大壁＋欄間	90
ユーティリティ・浴室などの出入口	91
ドアの納まり	92
引違いハンガー戸・片開き防音扉	93

## 内部付属物 階段・床の間・押入・カーテンボックス

内部付属物の基本事項	96
箱階段	97
側桁階段	98
彫桁階段	100
階段手摺・手摺子	104
床の間	105
押入・カーテンボックス	108

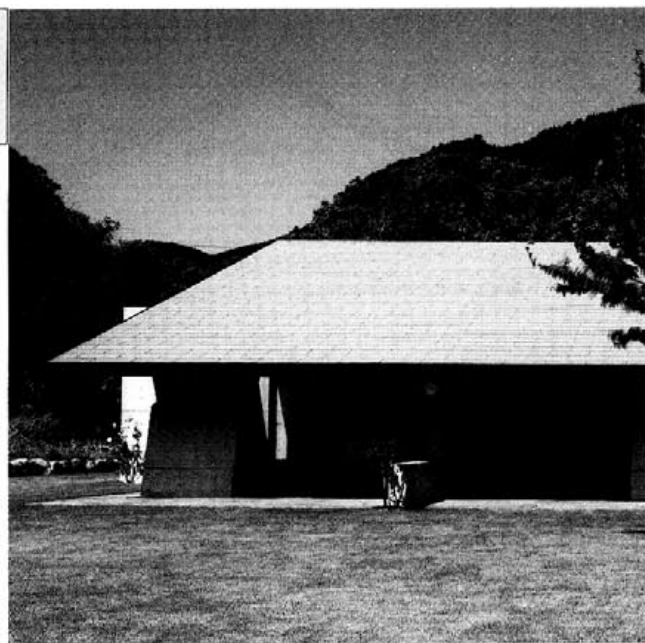
## 実例

越屋根・出窓・柱脚 陶芸家の家(設計:柳建築事務所)	110
軒先・棟換気・外壁・ぬれ縁 藤沢の家(設計:連合設計社市谷建築事務所)	112
トップライト・バルコニー 金子邸(設計:木下正昭建築設計事務所)	114
屋根・欄間 入母屋の家(設計:林雅子)	116
屋根・軒先・窓まわり 麻布の家(設計:レーモンド建築設計事務所)	118
外壁および棟・軒・土台まわり 白老の家(設計:東孝光＋東環境・建築研究所／東利恵)	120
板戸・引込み障子 湘南の家(設計:吉村順三設計事務所)	122
外部および内部開口部まわり K邸(設計:竹中工務店)	124
木製サッシュ 葉山の家(設計:茂木建築設計事務所)	126
可動出窓・R出窓 市が尾のぼり坂の家(設計:横河健／横河設計工房)	128
門 某邸(設計:杉山隆建築設計事務所)	130
内壁・内部建具 西の内・紙漉屋の家(設計:樹設計事務所)	132
内部開口部・間仕切 相即居(設計:本間至／プライシユティフト)	134
軒内建具と間仕切障子 洛北無名の家(設計:横内敏人建築設計事務所)	136
床の間・出書院まわり 佐々木邸(設計:大江宏建築事務所)	138
階段・屋根・広縁 吹抜けの廂(設計:安藤邦廣)	140
玄関収納戸棚 出崎邸(設計:吉田五十八)	142
門 K邸(設計:竹中工務店)	144

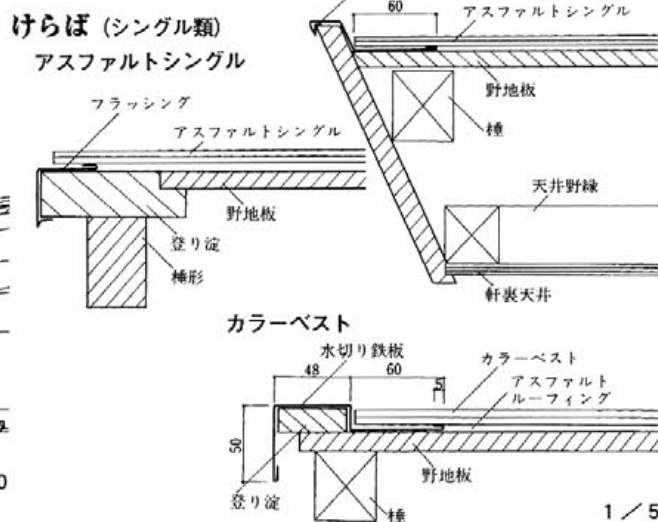
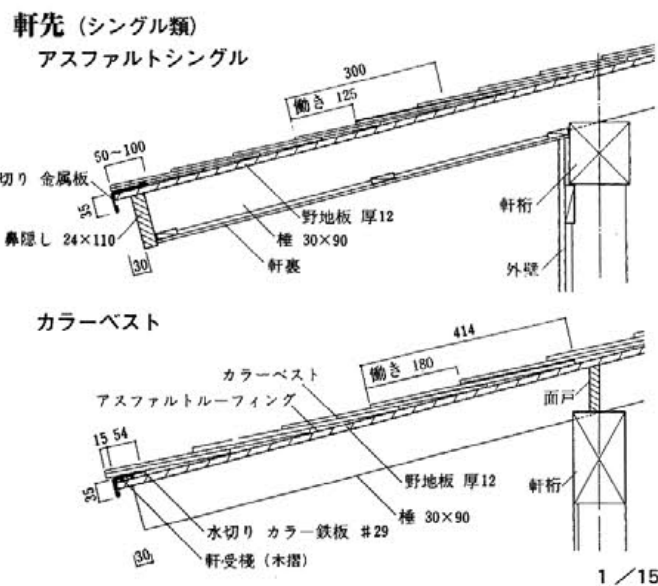
## 付録 性能とディテール

火	146	熱	150	音	152	光	154	水	155
---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----

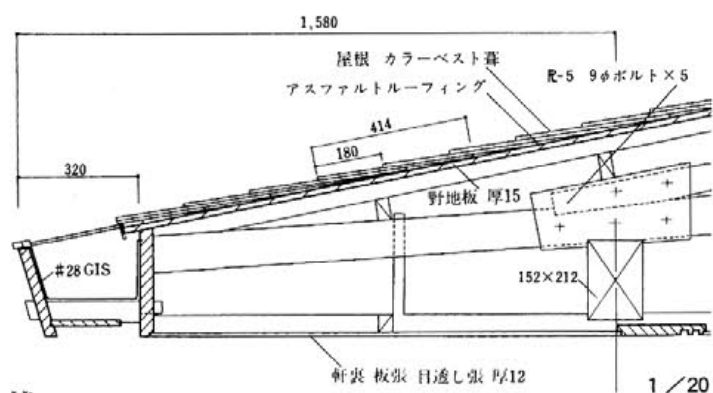




シングル葺き屋根

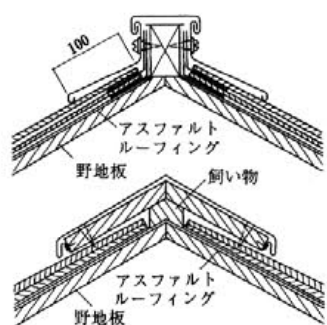


内樋 (シングル類)

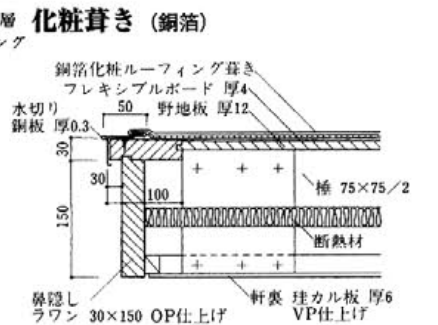
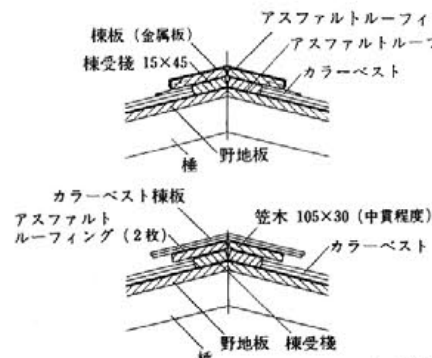


棟 (シングル類)

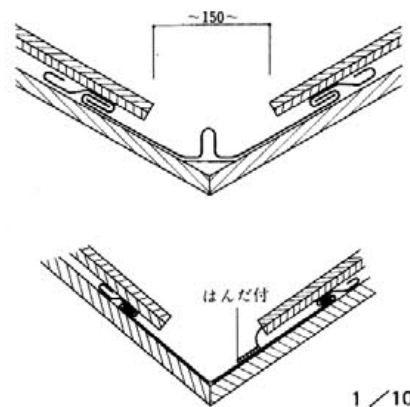
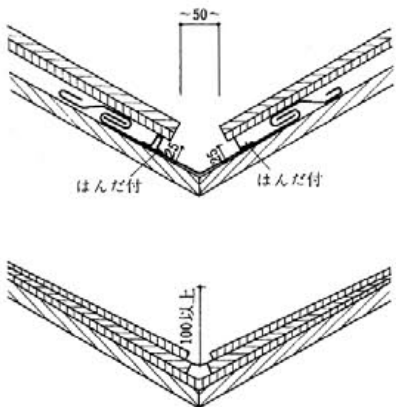
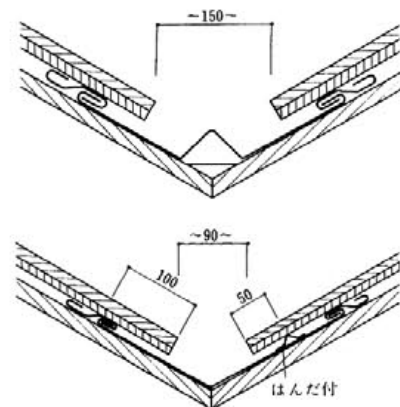
アスファルトシングル



カラーベスト

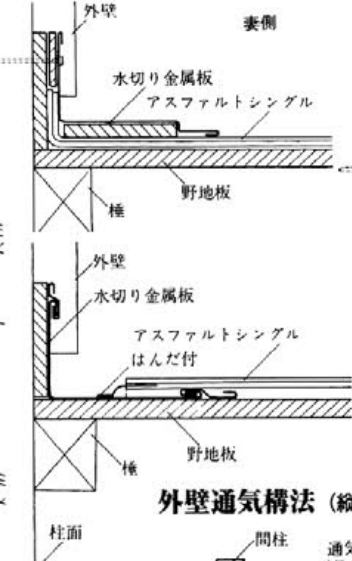
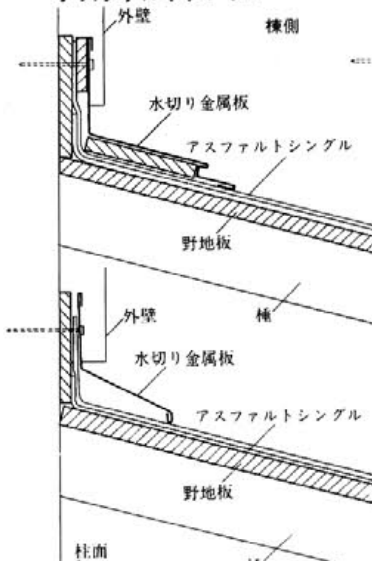


谷 (アスファルトシングル)

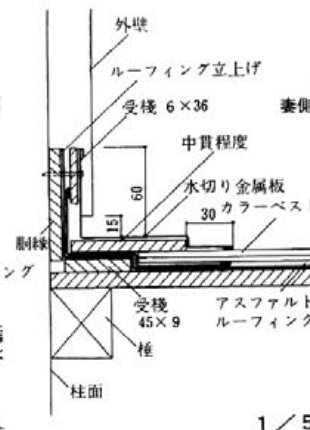
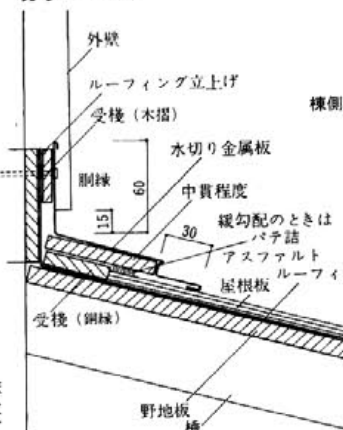


木造の詳細 2 仕上げ編

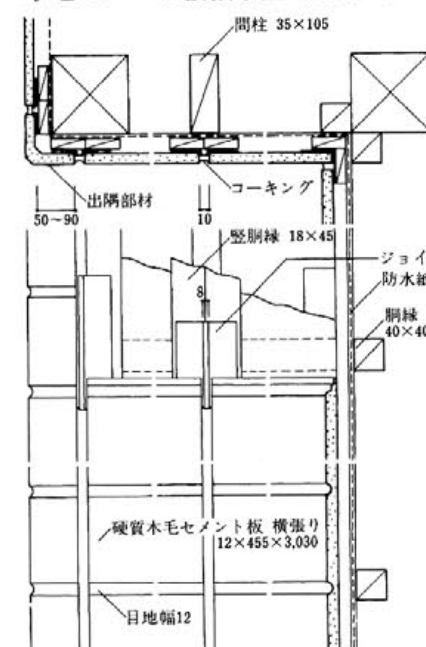
谷 (シングル類) アスファルトシングル



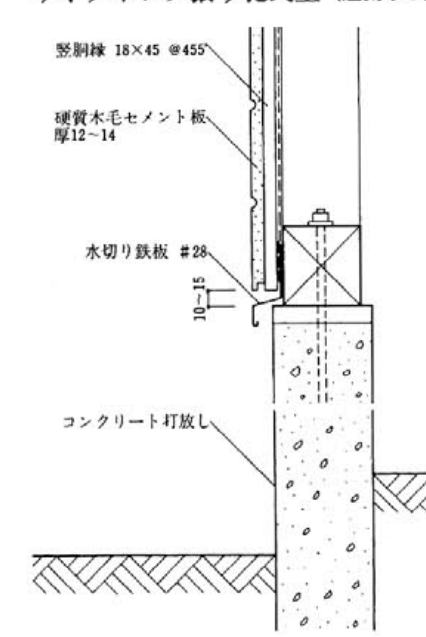
カラーベスト



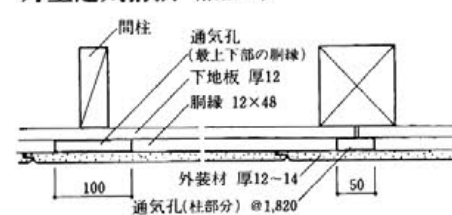
木毛セメント板張り壁 (通気なし)



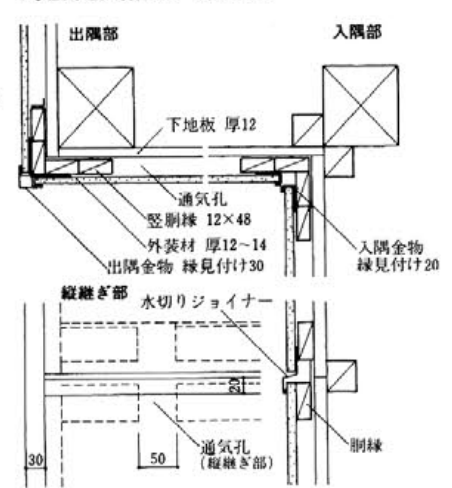
サイディング張り乾式壁 (通気なし)



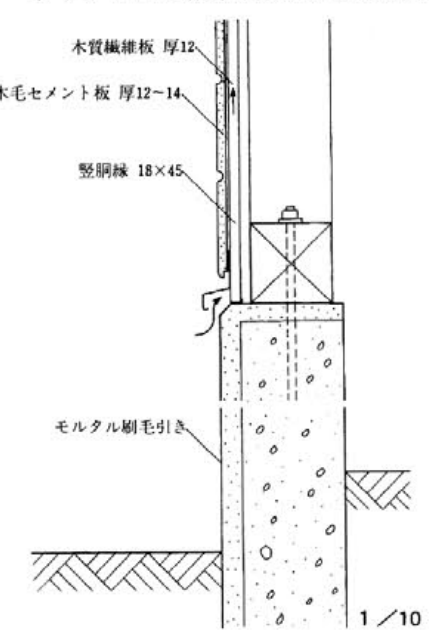
外壁通気構法 (縦張り)



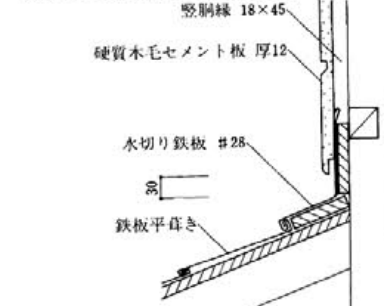
外壁通気構法 (横張り)



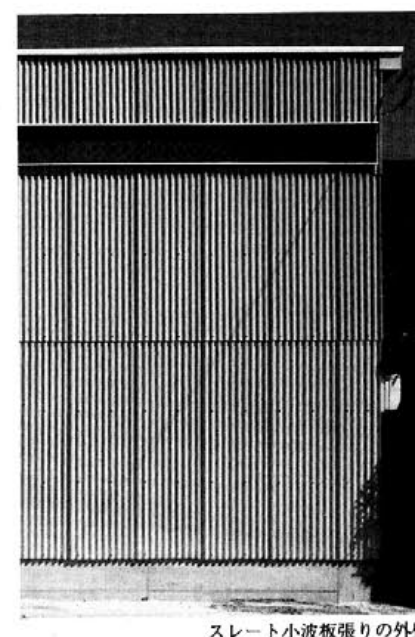
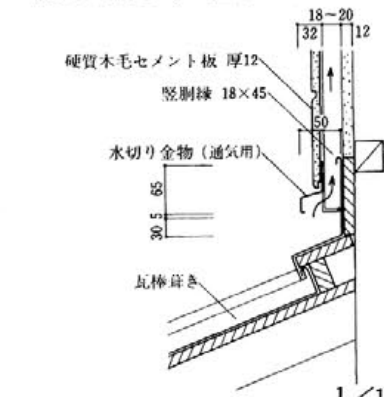
サイディング張り乾式壁 (通気あり)



庇との納まり (通気なし)



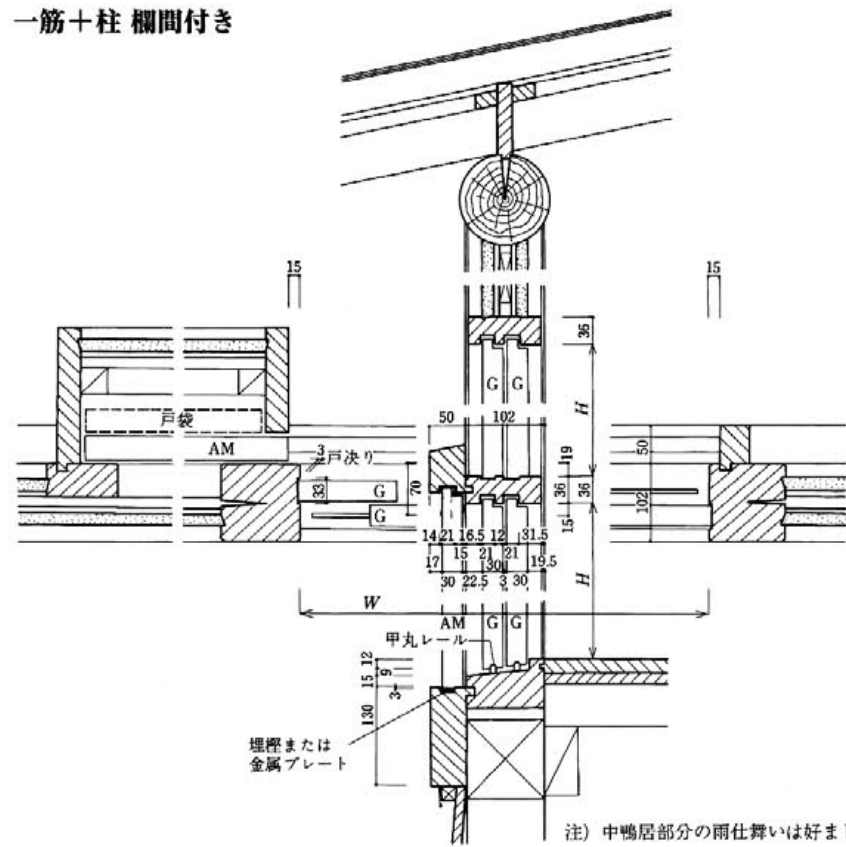
庇との納まり (通気あり)



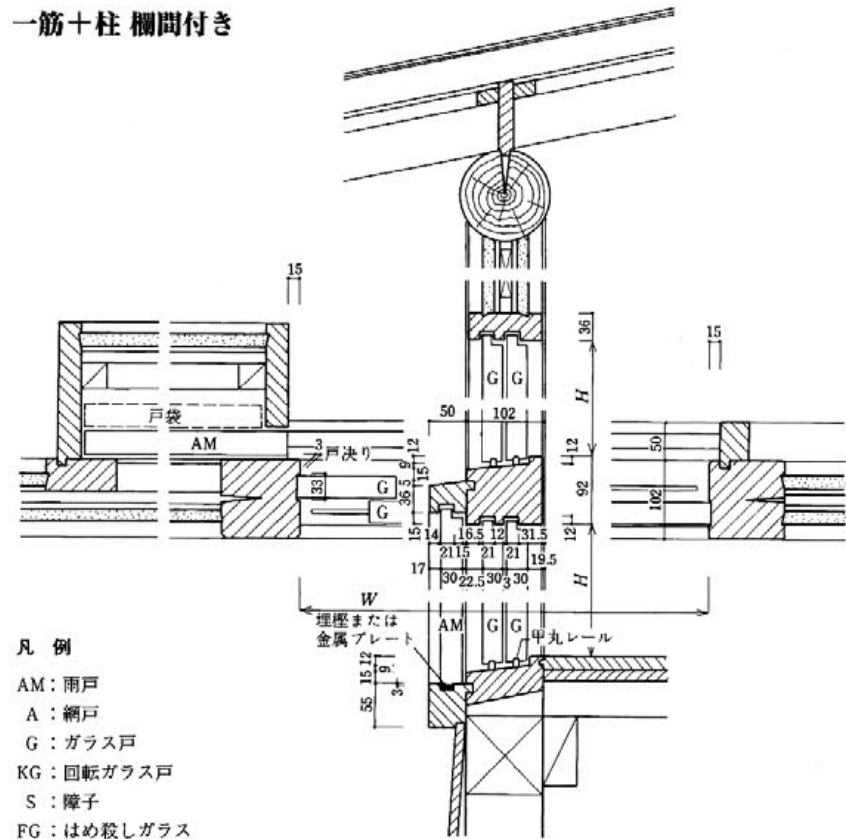
スレート小波板張りの外壁

# 縁側の ガラス戸・格子

一筋+柱 欄間付き

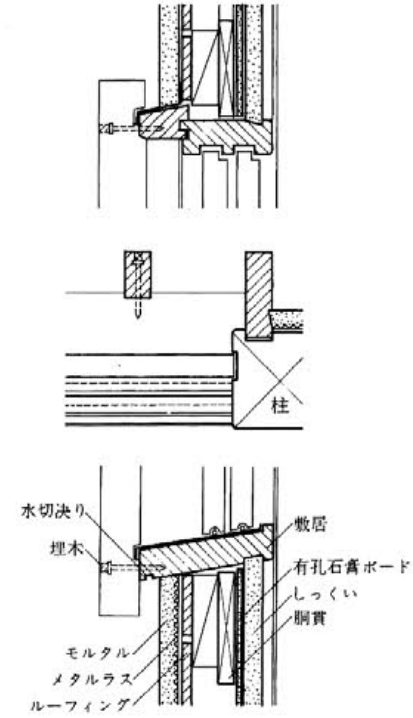


一筋+柱 欄間付き

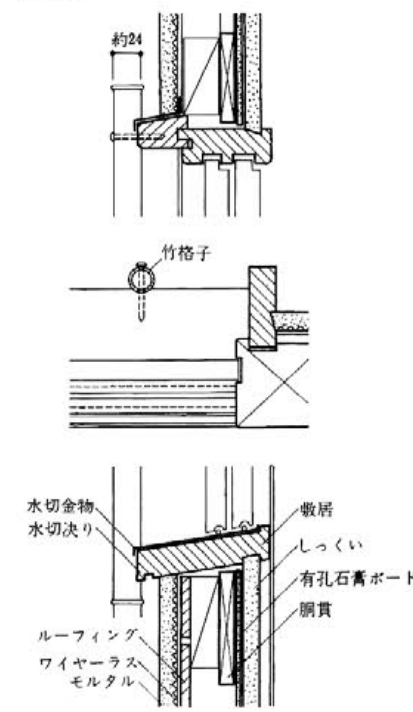


- 凡例  
 AM: 雨戸  
 A: 網戸  
 G: ガラス戸  
 KG: 回転ガラス戸  
 S: 障子  
 FG: はめ殺しガラス

本格子

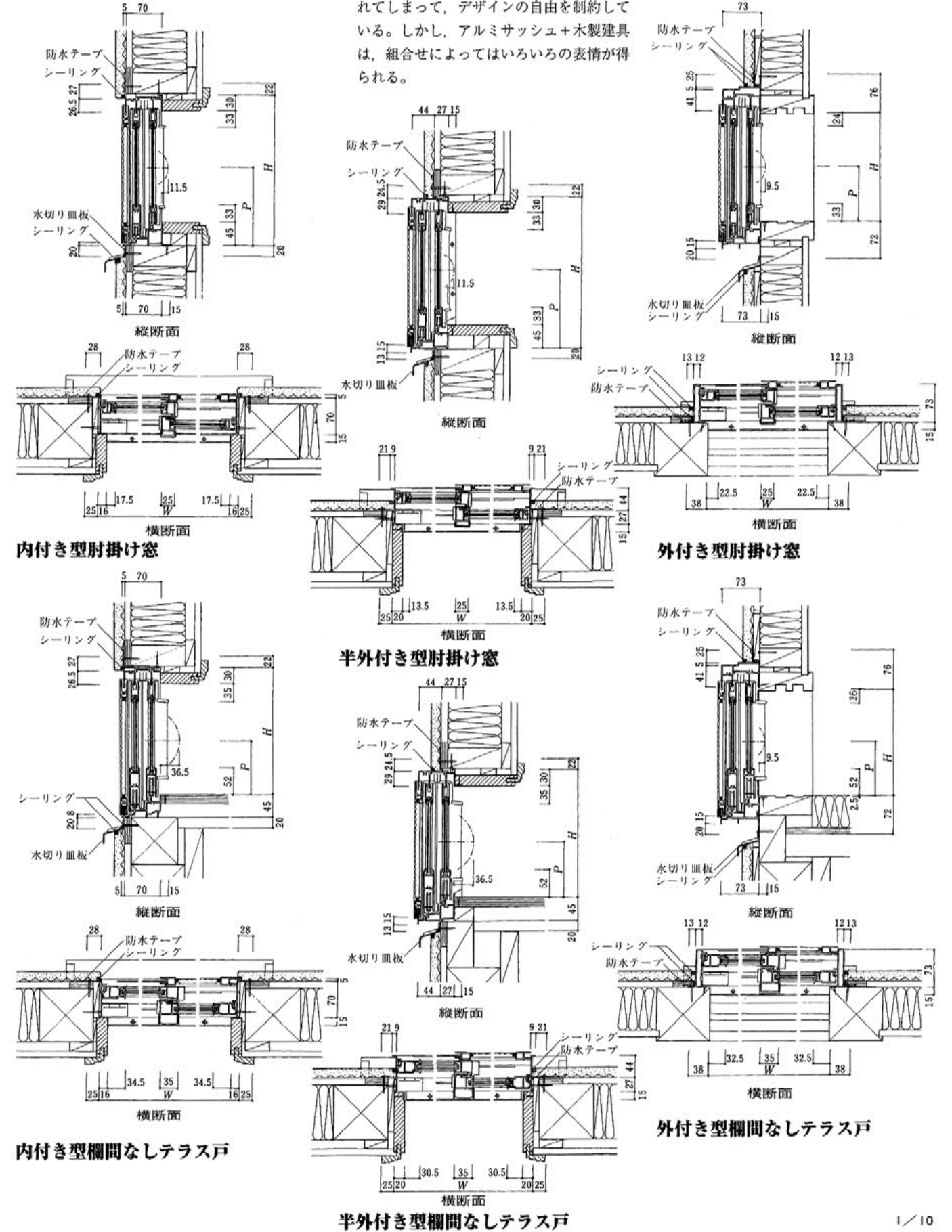


竹格子



# 住宅用アルミサッシ

木造建物の開口部にも、防火性や耐久性および遮断性能が要求され、アルミサッシの採用は多い。木造とサッシの取合い部のディテールは、各社で標準納まりが確立されているようであるが、表現が画一化されてしまっており、デザインの自由を制約している。しかし、アルミサッシ+木製建具は、組合せによってはいろいろの表情が得られる。





# 床の間

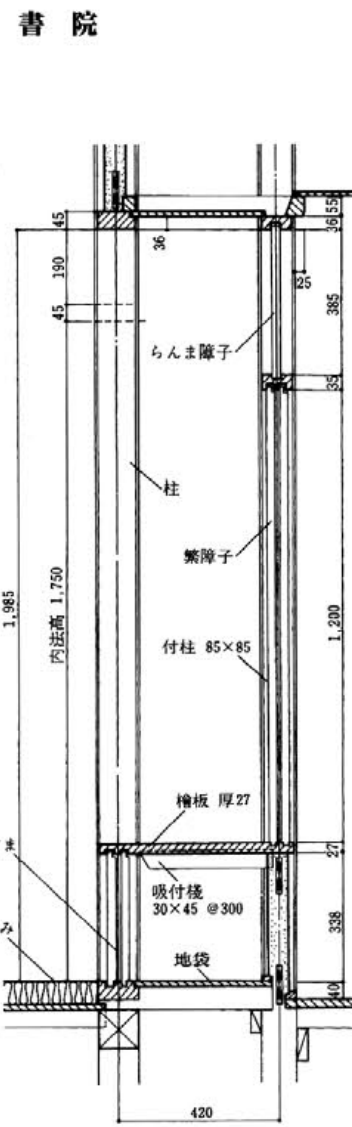
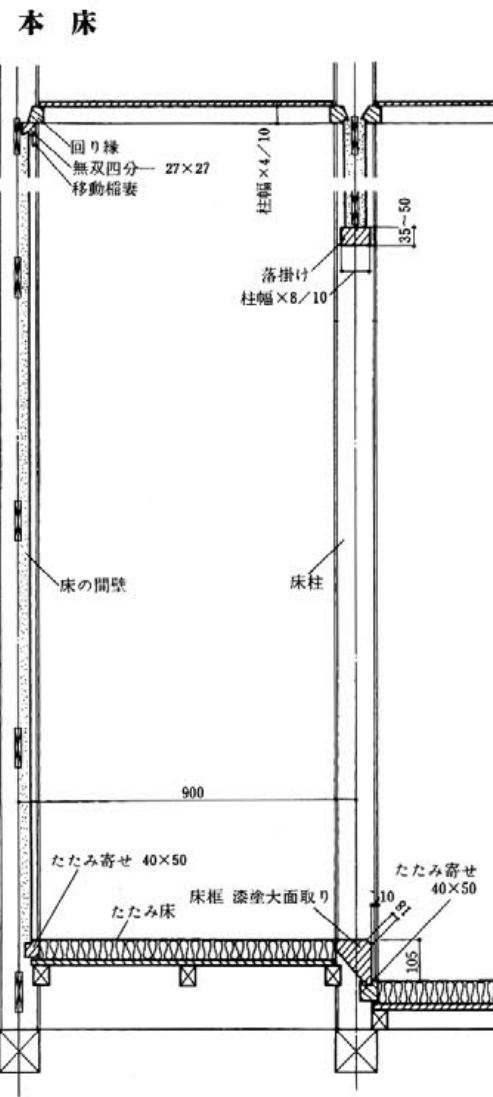
**床柱** 床の間で一番重きをなすもので、用材としては、檜・杉・赤松などの角材が多いが、紫檀・黒檀・たがやさんなどの輸入材も珍重される。丸柱には、杉の磨き丸太や絞り丸太、檜の錆丸太や当丸太などが使われるが、数寄屋造りには桜や赤松の皮付き丸太、竹材（真竹・孟宗竹・錆竹・角竹）なども使われる。

**床框** 蠟色漆塗りが正式で、朱溜色・うるみ色・春慶塗りなどや、木地框には、紫檀・黒檀・けやき、黒柿や杉の磨き丸太、檜の錆丸太なども用いられる。

その他、落し掛けは床の間の上部にあるので、軽い感じの木地が用いられる。杉柢・桐などが主で、錆竹、爆竹なども使われるが、数寄屋造りには、端欠けで納めたり、塗り回す例もある。床板には地板や畳薄縁を敷く。地板には、けやき・脂松・赤松・とち・くすなどが用いられる。畳や薄縁の縁には紋縁が使われる。床の間の天井は竿縁天井、杉の鏡天井が普通である。数寄屋造りでは、和紙・網代・萩・葎・葛布張りなど多様である。

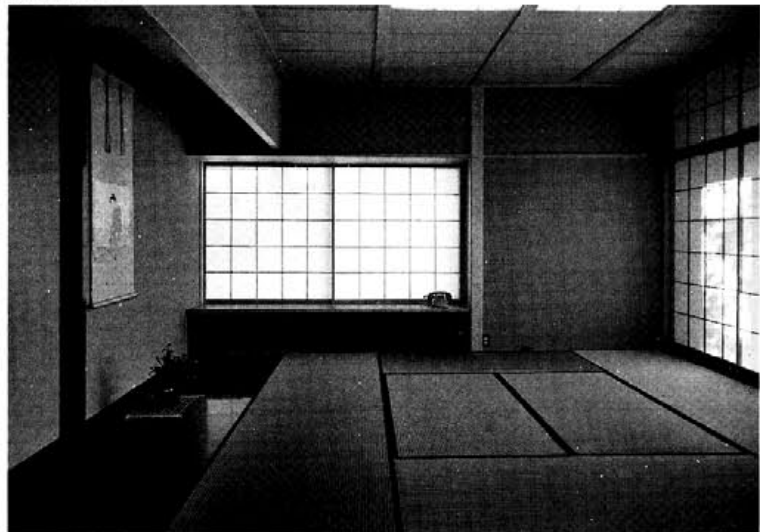
**無双四分一** 掛け軸を吊るすための可動の稲妻折れ釘を仕組んだ部材のことで、床の間正面の回り縁の下に取り付ける。無双とは、自由に可動できるという意味で、四分一とは、入隅に取り付ける細木の寸法のことである。

年々新感覚の床の間が創作され、そのディテールもさまざまであるが、ここでは、基本的なものを選んで図示する。



1/20

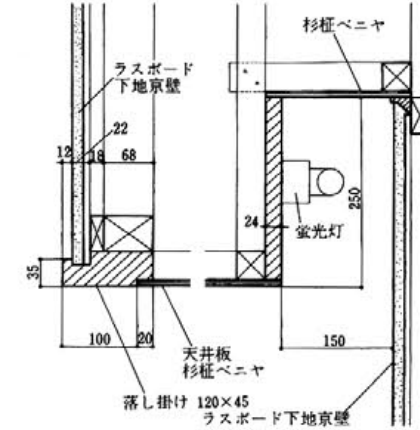
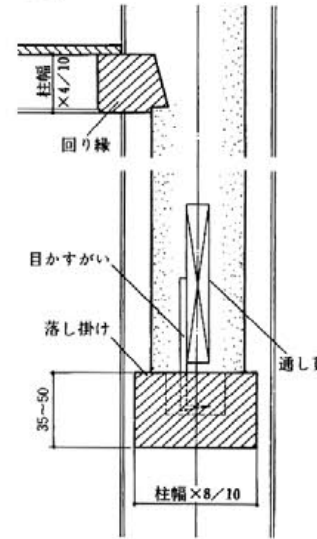
蹴込み床と書院



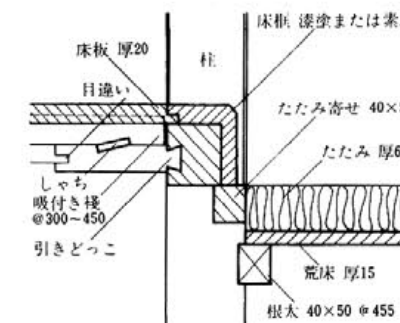
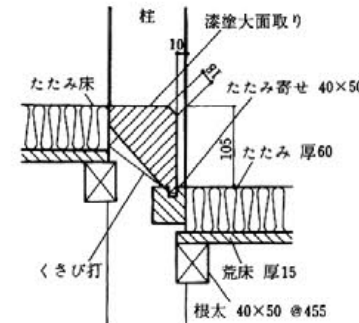
木造の詳細 2 仕上げ編

# 落し掛け・本床・蹴込み床

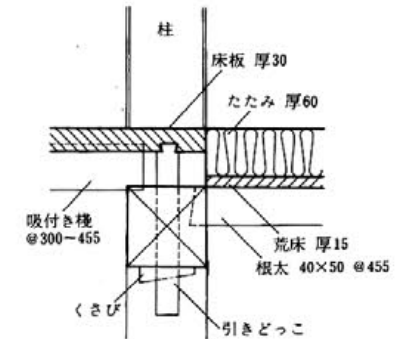
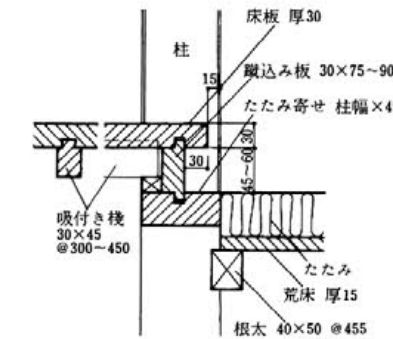
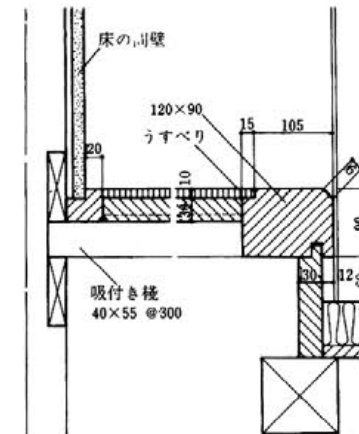
## 落し掛け



## 本床

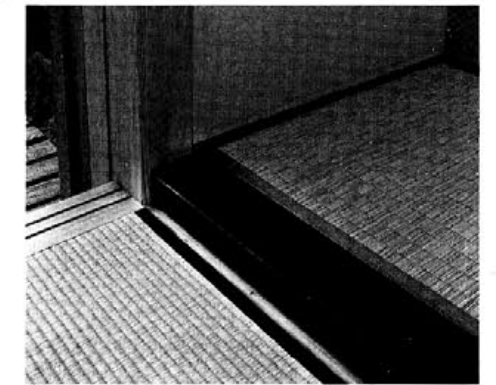


## 蹴込み床

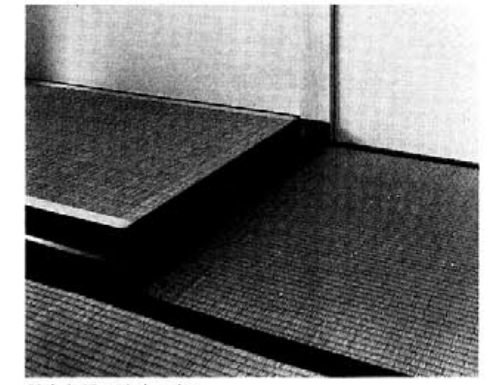


1/10

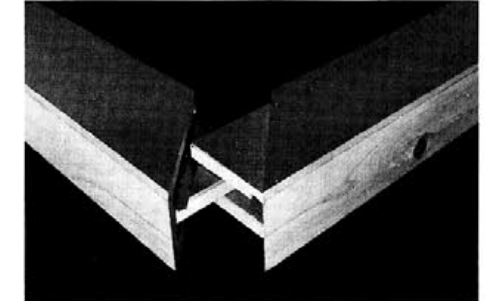
内部付属物



柱と畳床の取合い部



畳床と畳の取合い部



大面取りのディテール